

岩子島新規就農者がトマト栽培に取り組む

【平成 28 年 8 月 9 日 掲載】

尾道市向島町岩子島地区では、25 戸が夏期にトマトを栽培し、その他の時期は特産であるわけぎを栽培する複合経営をしています。

河尻通（こうじりとおる）さん（48 歳）は平成 25 年に就農し、わけぎを露地とハウス合わせて延べ 40 a 栽培しています。就農 4 年目となる今年は、収入向上のため、わけぎ収穫後のハウスにトマト 300 本（1.5 a）の苗を定植しました。東部農業技術指導所は河尻さんに対し、温度管理や施肥管理について重点的に支援し、この度初収穫を迎えました。

トマト栽培について河尻さんは、「わけぎ栽培に比べて実がなるまでの手入れが大変であるが、様々な作業を経験でき、収穫の楽しさもある。来年はトマトの定植本数を 1,000 本（5 a）程度に増やし、将来は 2,000 本（10 a）まで増やしていきたい。」と今後の規模拡大に大変意欲を持っています。さらに、現在は無加温栽培で収穫期間は 2.5 ヶ月程度ですが、将来は加温設備を導入し、収穫期間を 1 ヶ月延ばすことにより、収量の向上を目指しています。今後は今年度の栽培結果を踏まえ、次年度のトマト栽培の規模拡大に向け、土づくりなどの支援を実施する予定です。

東部農業技術指導所では尾道市、JA 等の関係機関と共同で新規就農者 5 名の栽培技術向上と経営発展に向けた支援に取り組んでいきます。



【トマトを収穫する河尻さん】



【調製作業場で出荷準備をする河尻さん】

情報提供元

東部農業技術指導所

